

**家庭WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

家庭科等の目標の在り方について＜改善案＞

現行の学習指導要領の系統性の明確化を図るという方向性は引継ぎつつ、総則・評価特別部会の整理を踏まえ、構成を見直すとともに、空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がり明示することや、社会が複雑化・多様化する中で、実践を多角的に評価・改善することにより、生活をよりよくするための適切な判断をする力を育成する視点を重視した見直しを行ってはどうか。

(参考)

- ・空間軸の視点：小学校は、自分と家族・家庭、中学校は、家族・家庭や地域、高校は、家族・家庭、地域及び社会
- ・時間軸の視点：小学校は、現在及びこれまでの生活、中学校は、これからの生活を展望した現在の生活、高校は、生涯を見通した生活

※赤字は第2回WGにおける追記案。緑字は第2回WGにおける意見や今回資料等を踏まえた修正案。

目標・柱書

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	自分や家族・家庭の生活をよりよくしようと工夫する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
中学校	家族・家庭や地域における生活をよりよくしようと工夫し創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
高校	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。		
小学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を多角的に評価・改善し、考えたことを表現するなど、日常生活の課題を解決する力を養う。	・家庭生活を大切にすることを育むとともに、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 ・自分や家族・家庭の生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
中学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。	・家族や地域の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
高校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。

家庭科等の見方・考え方の在り方について〈改善案〉

新たな「見方・考え方」については、側面②の「各教科等を学ぶ本質的な意義」という観点を踏まえ、**家庭科の本質を示す事項に焦点化して端的に示す**とともに、**小・中・高等学校を通じて統一的に示す**方向で見直してはどうか。

一方、従前の「見方・考え方」で示していた側面①の「各教科等の学びの深まり」を促す事項（「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」など）については、**高次の資質・能力の構造化の中で具体的に示す**こととしてはどうか。

現行の見方・考え方

小・中・
高等学校

家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

新しい見方・考え方（案）

小・中・
高等学校

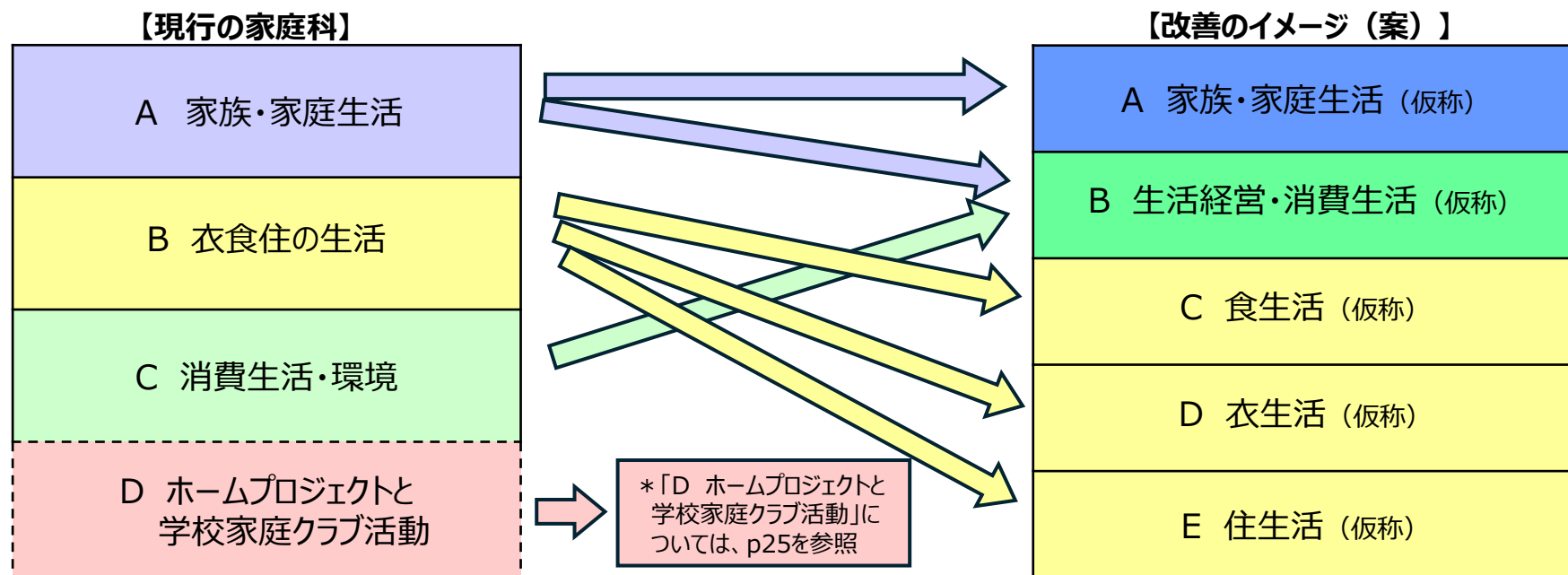
自分や家族の生活（当該教科で扱う事象や対象）を、主体的に改善し、持続的なものとする視点から多角的（当該教科固有の物事を捉える視点）に捉え、よりよい生活を創り出す（当該教科固有の考え方や判断の仕方）こと

小・中・高等学校家庭科における領域の見直しのイメージ図（案）

第3回WG資料より

現状の課題等を踏まえつつ、家庭科として必要な概念の習得に繋がるよう、現在の小・中・高等学校における系統性の在り方を、各領域の系統性を高める方向で以下のとおり見直してはどうか

- ①「生活の基盤に関する事項」（生活を営む主体となる「人」に関する指導領域と生活を営む上での「営み方」（マネジメント）に関する指導領域）と「生活を構成する要素に関する事項」（衣食住に関する指導領域）の2つに分類
- ②生活を営む主体となる「人」に関する指導領域は「家族・家庭生活（仮称）」、生活を営む上での営み方（マネジメント）に関する指導領域は「生活経営・消費生活（仮称）」。なお、「消費者教育（金融経済教育含む）」は、現行の表記の在り方と同様に「生活経営」に併記
- ③「衣食住に関する指導領域」は、食育の重要性なども踏まえつつ、家政学の諸領域を参考に「食生活（仮称）」「衣生活（仮称）」「住生活（仮称）」の順の3領域
- ④家庭科の領域については、「生活の基盤に関する事項」の2領域の後、「生活を構成する要素に関する事項」の3領域



* 小・中・高等学校の領域の正式な名称については、p27・28を参照

* 上記の図は、イメージであり各領域の分量・時数を示すものではない。

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を多角的に評価・改善し、考えたことを表現するなど、日常生活の課題を解決する力を養う。	- 家庭生活を大切にする心情を育むとともに、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 - 自分や家族・家庭の生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
中学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。	- 家族や地域の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 - 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
高等学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	- 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 - 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
	家庭基礎	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	- 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 - 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
	家庭総合	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を深めながら多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	- 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、率先して生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 - 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。

見方・考え方

- 自分や家族の生活の営み、地域や社会との関わりの中で持続的なものとする視点から総合的・多角的に捉え、主体的によりよい生活を創り出すこと。

資質・能力の全体構造（素案）

	A 家族・家庭生活（仮称）		B 生活経営・消費生活（仮称）	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	自分が家族の一員であることを自覚し、生活の中で自分にできることを考え取り組むことで、家庭生活をよりよくできることについて理解する。	家族の一員として、家族や地域の人々と協力し合う中で自分の生活上の課題を見いだし、よりよい生活に向けて工夫することができる。	生活を営む上で必要な資源を効果的に活用することで、自分の生活をよりよくできることについて理解する。	家族の一員として、生活を営む上で必要な資源を効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見いだし、よりよい生活に向けて工夫することができる。
	内容項目例		内容項目例	
	- 自分の成長の自覚 - 家庭生活と家族の大切さ - 家族との触れ合いや団らん - 地域の人々との協力	家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること	- 家庭生活を支える仕事と生活時間の有効な使い方 - 買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さと計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方、購入するために必要な情報の収集・整理 - 自分の生活と身近な環境との関わり、環境に配慮した物の使い方	- 家庭の仕事の計画を考え、工夫すること - 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫すること - 環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	自分が家族や地域を支える一員であることを自覚し、生活の中で自分にできることを考え取り組むことで、家庭生活をよりよくできることについて理解する。	家族や地域の人々と協力・協働する中で自分の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、自分の生活をよりよくできることについて理解する。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見いだし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。
	内容項目例		内容項目例	
	- 自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働 - 幼児の発達と生活の特徴、幼児との関わり方 - 地域の人々との関わり方	家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること	- 家族の互いの立場や役割 - 購入方法や支払いの特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 - 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響	- 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること - 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動について考え、工夫すること

資質・能力の全体構造（素案）

	C 食生活（仮称）		D 衣生活（仮称）		E 住生活（仮称）	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	栄養バランスを考えた食事を楽しむことで、自分の食生活をよりよくできることについて理解する。	自分の食生活上の課題を見だし、健康でよりよい食生活に向けて工夫することができる。	衣服を手入れしながら着用したり、製作を楽しんだりすることで、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。	自分の衣生活上の課題を見だし、健康・快適でよりよい衣生活に向けて工夫することができる。	季節の変化を感じつつ、日頃から住まいを整えておくことで、自分の住生活をよりよくできることについて理解する。	自分の住生活上の課題を見だし、快適でよりよい住生活を工夫することができる。
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
中学校	- 食事の役割と食事の仕方 - 安全や衛生的な調理（ゆでる・いためる）の仕方と調理計画、伝統的な日常食の調理 - 栄養バランスを考えた1食分の献立の作成方法	- 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること - おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること 1食分の献立についての栄養のバランスを考え、工夫すること	- 衣服の主な働き、日常着の快適な着方 - 日常着の手入れ - 製作に必要な材料や手順と製作計画、目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱い	- 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること - 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画を考え、工夫すること	住まいの主な働き、季節の変化に合わせた住まい方、住まいの整理・整頓や清掃の仕方	季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、自分の目的や希望に応じて食生活をよりよくできることについて理解する。	自分の食生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を工夫し、創造することができる。	衣服を選択し手入れしながら計画的に着用することや、製作した物が生活に役立つとともに、自分の衣生活をよりよくできることについて理解する。	自分の衣生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・快適でよりよい衣生活を工夫し、創造することができる。	自分や家族が快適・安全に過ごせるよう日頃から住まいを整えておくことで、自分や家族の住生活をよりよくできることについて理解する。	自分や家族の住生活上の課題を見だし、自立に向けて快適・安全でよりよい住生活を工夫し、創造することができる。
中学校	内容項目例		内容項目例		内容項目例	
	- 中学生の栄養の特徴と健康によい食習慣 - 中学生の1日分の献立作成の方法 - 食品の選択や保存、調理（焼く、煮る、蒸す、生肉・生魚の扱い）の仕方と調理計画、地域の食文化と和食の調理	- 健康によい食習慣について考え、工夫すること - 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること - 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること	- 衣服と社会生活との関わり、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用、材料や状態に応じた日常着の手入れ - 製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い	- 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること - 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること	家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方	家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること
	内容項目例		内容項目例		内容項目例	

資質・能力の全体構造（素案）

A 家族・家庭生活（仮称）		B 生活経営・消費生活（仮称）	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
自立した生活者を営む主体として、様々な人々の生活を理解し、共に協力し合うことで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。	家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創造することができる。	自立した生活を営む主体として、生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、生涯にわたって生活をよりよくできることについて理解する。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、適切に意思決定し、自立した生活を営む主体として、よりよい生活を創造することができる。
内容項目例		内容項目例	
- 人の一生、自己と他者、社会との関わりと様々な生き方 - 生涯発達の視点からの青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わり - 乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能 - 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の孫g年と自立生活の支援や介護、生活支援に関する基礎的な技能 - 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援	- 家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく行動 - 子供を生み育てることの意義、子供の発達のための親や家族及び地域や社会の果たす役割 - 家族や地域及び社会の果たす役割の重要性 - 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもっとともに支え合って生活することの重要性	- 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理 - 生涯を見通した生活課題に対応した意思決定 - 家族・家庭の機能と家族関係 - 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理 - 消費者の権利と責任、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定、契約の重要性、消費者保護の仕組み、生活情報の適切な収集・整理 - 生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義	- 生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、生活設計 - 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性 - 責任ある消費 - 安心で安全な生活と消費

資質・能力の全体構造（素案）

		C 食生活（仮称）		D 衣生活（仮称）		E 住生活（仮称）	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
高等学校	家庭基礎	自立した生活を営む主体として、科学的な根拠を基に、健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、ライフステージに応じた食生活をよりよくできることについて理解する。	自分や家族及び地域における食生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として、生涯にわたって健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を創造することができる。	自立した生活を営む主体として、科学的な根拠を基に、健康・快適・安全な衣生活や日本の衣文化の大切さとともに、ライフステージに応じた衣生活をよりよくできることについて理解する。	自分や家族及び地域における衣生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として生涯にわたって健康・快適・安全で衣文化を大切にしたいよりよい衣生活を創造することができる。	自立した生活を営む主体として科学的な根拠を基に、健康・快適・安全な住生活や日本の住文化の大切さとともに、ライフステージに応じた住生活をよりよくできることについて理解する。	自分や家族及び地域における住生活上の課題を見だし、自立した生活を営む主体として生涯にわたって健康・快適・安全で住文化を大切にしたいよりよい住生活を創造することができる。
		内容項目例		内容項目例		内容項目例	
		- ライフステージに応じた栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能 - おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品衛生、目的に応じた調理に必要な技能	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活	- ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理 - 材料、被服構成、被服衛生、被服の計画・管理に必要な技能	被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理、目的に応じた着装	ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、適切な住居の計画・管理に必要な技能	住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わり、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境の工夫

資質・能力の全体構造（素案）

A 家族・家庭生活（仮称）		B 生活経営・消費生活（仮称）	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
家庭や地域の生活を率先して、上させる主体として、様々な人々の生活を理解し、共に協力し合うことで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。	家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、よりよい生活を創造することができる。	家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することで、家庭や地域の生活をよりよくできることについて理解する。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、適切に意思決定し、家庭や地域の生活を率先して支え、向上させる主体として、よりよい生活を創造することができる。
内容項目例		内容項目例	
- 人の一生、自己と他者、社会との関わりと様々な生き方 - 生涯発達の視点からの各ライフステージの特徴と課題、青年期の課題、意思決定の重要性 - 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 - 乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援、子供の発達に応じて適切に関わるための技能 - 子供の福祉 - 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能 - 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題、高齢者福祉 - 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援 - 家庭と地域との関わり、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義	- 家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく責任のある行動 - 子供を生み育てることの意義、保育の重要性、子供の発達のための親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性、子供との適切な関わり方 - 高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方 - 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性	- 生涯を見通した生活課題に対応した意思決定 - 生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源、情報の収集・整理 - 家計の管理、生活における経済と社会との関わり - 生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方、情報の収集・整理 - 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定、責任ある消費、生活情報の収集・整理 - 消費者の権利と責任、消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性、消費者保護の仕組み - 生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義	- 生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、生活設計 - 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性 - 責任ある消費行動 - 安全で安心な生活と消費

資質・能力の全体構造（素案）

C 食生活（仮称）		D 衣生活（仮称）		E 住生活（仮称）	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
家族や地域の食生活を支える人材として、健康で安全な食生活や地域の豊かな食文化の大切さとともに、家族や地域の人々のライフステージに応じて食生活をよりよくできることについて理解する。	自分や家族や地域における食生活上の課題を解決し、家庭や地域の生活を支える人材として、食文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・安全でよりよい食生活を創造することができる。	家族や地域の衣生活を支える人材として、健康で快適な衣生活や日本の衣文化の大切さとともに、家庭や地域の人々のライフステージに応じて衣生活をよりよくできることについて理解する。	自分や家族や地域における衣生活上の課題を解決し、家庭や地域の生活を支える人材として、衣文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適でよりよい衣生活を創造することができる。	家族や地域の住生活を支える人材として、健康・快適・安全な住生活や日本の住文化の大切さとともに家庭や地域の人々のライフステージに応じて住生活をよりよくできることについて理解する。	自分や家族や地域における衣生活上の課題を解決し、家庭や地域の生活を支える人材として、住文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適でよりよい住生活を創造することができる。
内容項目例		内容項目例		内容項目例	
- 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化、食と人との関わり - ライフステージの特徴や課題、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能 - おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品の衛生、目的に応じた調理に必要な技能	健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造、日本の食文化の継承・創造	- 衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化、被服と人との関わり - ライフステージの特徴や課題、身体特性と被服の機能及び着装、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の管理・計画に必要な情報の収集・整理 - 被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生、被服管理	目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装、日本の衣文化の継承・創造、目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装、日本の衣文化の継承・創造	- 住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化、住まいと人との関わり - ライフステージの特徴や課題、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、住生活の計画・管理に必要な機能 - 家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報の収集・整理	ライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造

**生活、総合的な学習・探究の時間WGにおける
議論の補足イメージ及び
教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

P.3の「1. 現状と課題、期待される学び」を踏まえ、生活科の本質的意義を明確にし、それが学校教育において発揮する教育的価値、位置付けを明らかにするとともに、深い学びを実装するための視点として「4つの本質的意義」を体系的に整理する。

2. 生活科がもつ4つの〈本質的意義〉

人間的な学びを実現するために、以下の4つの観点を本質的意義として位置付けてはどうか。

① 身体性 — 身体で世界を捉える（実感）

- 対象との関わり方として、触る、動かす、試すなど諸感覚を通して対象を捉えるとともに、単に「分かった気がする」でなく納得感を伴って「分かった」「できた」という手応え（実感）を得られるようになる。AIが提供する情報だけでは得られない、「身体で世界を捉える」体験や活動が、自分の外に広がる世界と確かな接点をもつ出発点となる。

② 対象と自分との関わり — 身近な世界に働きかけ、気付く（好奇心・探究心）

- 自分が触る、動かす、試すといった働きかけによって、身近なものごとの様子や変化に心を向けることを通して、身近なものごとが変化することを実感する中で、「自分が動くとき対象となる世界が変わる」という手応えを得る。その経験が、「なぜ？」「どうして？」という好奇心や探究心を生み出し、自分との関わりで対象を捉える。
- 児童が自ら世界に働きかけることで、身近な人々、社会及び自然のよさや特徴などに気付くとともに、それらを身近に感じ、大切に思いながら関わっていけるようになる。

③ 他者と自分との関わり — 他者の思いや願いを尊重し、共に生活する（協働性・共感）

- 他者との関わりを通して、自分一人ではできないことも、互いに力を出し合うことでできるようになる経験を重ねる中で、相手の思いに気付き、受けとめ、尊重する態度が育まれる。他者との関わりから生まれる協働・共感の経験は、社会で共に生活するために重要であり、こうした経験を重ねることで、児童の学びは身近な人から地域・社会へと関係が広がっていくことになる。

④ 自己認識 — 自分という存在に気付く（主体性・自立性）

- 生活科の学びで、「自分はどう感じるか」「何が好きか」「何をしたいか」に気付き、その気付きが、自分で考え行動する主体性や自立性を育む。「自分はこう感じる」「自分はこう考える」からこそ、自分自身のよさや可能性、成長に気付けるようになる。

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	活動や体験の過程において、自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気付くとともに、他者との関わりを通してそれらの気付きを深め、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、気付きや実感を基に自分自身や自分の生活について考えを巡らせ、多様に表現することができるようにする。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、他者と協働し、状況に応じて関わり方を調整するとともに、意欲や自信をもって、学びや生活をより豊かにしようとする態度を養う。

見方・考え方

- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりや、自分と他者との関係の中で捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする
こと

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	学校、家庭及び地域の生活に関する内容	身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	自分自身の生活や成長に関する内容
	高次の資質・能力	高次の資質・能力	高次の資質・能力
	身近な人々、社会及び自然に親しみや愛着をもち、集団や社会の一員として安全で適切な行動することに向かうように、自分と生活とのつながりを繰り返し考え、多くの人々や場所と関わって成り立っていることへの気づきを深めている。	自分たちの生活をよりよくすることに向かうように、自分と生活とのつながりを広げたり深めたりしながら考え、身近な人々、社会及び自然との関わりが自分たちの生活につながっていることへの気づきを深めている。	意欲と自信を高めながら生活することに向かうように、自分の生活を振り返る中で、これまでの出来事や関わりを手掛かりに、自分の成長や身近な人々の支えについて考え、自分のよさや可能性への気づきを深めている。
	内容項目例	内容項目例	内容項目例
	(1) 学校と生活 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全に登下校をしたりしようとする。 (2) 家庭と生活 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。 (3) 地域と生活 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。	(4) 公共物や公共施設の利用 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。 (5) 季節の変化と生活 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることや気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。 (6) 自然や物を使った遊び 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。 (7) 動植物の飼育・栽培 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。 (8) 生活や出来事の伝え合い 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。	(9) 自分の成長 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	活動や体験の過程において、自分との関わりを通して、自分自身や身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、自分と対象や他者との関係に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、気付きや実感を基に自分自身や自分の生活について考えを巡らせ、多様に表現することができるようにする。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、他者とともに協働し、状況に応じて関わり方を調整するとともに、意欲や自信をもって、学びや生活をより豊かにしようとする態度を養う。

見方・考え方

- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりや、自分と他者との関係の中で捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	学校、家庭及び地域の生活に関する内容	身近な人々、社会及び自然に関する内容	自分自身の生活や成長に関する内容
	高次の資質・能力	高次の資質・能力	高次の資質・能力
	集団や社会の一員として安全で適切な行動をすることへ向かうように、身近な人々、社会及び自然に親しみや愛着をもって考え、学校、家庭及び地域の生活に関わることの気付きを高めること。	自分たちの生活をよりよくすることに向かうように、自分との関わりの中で工夫を重ねながら捉え直し、身近な人々、社会及び自然と関わることの気付きを高めること。	意欲と自信を高めながら生活することに向かうように、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考え、自分や他者との関わりの中でそれらを捉え直し、自分のよさや可能性の気付きを高めること。
	内容項目例	内容項目例	内容項目例
	(1) 学校と生活 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全に登下校をしたりしようとする。	(4) 公共物や公共施設の利用 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで作るものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。	(9) 自分の成長 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。
	(2) 家庭と生活 身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。	(5) 季節の変化と生活 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることや気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。	
	(3) 地域と生活 自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活するようにする。	(6) 自然や物を使った遊び 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。	
		(7) 動植物の飼育・栽培 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。	
		(8) 生活や出来事の伝え合い 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。	

目標、見方・考え方（素案）

目標

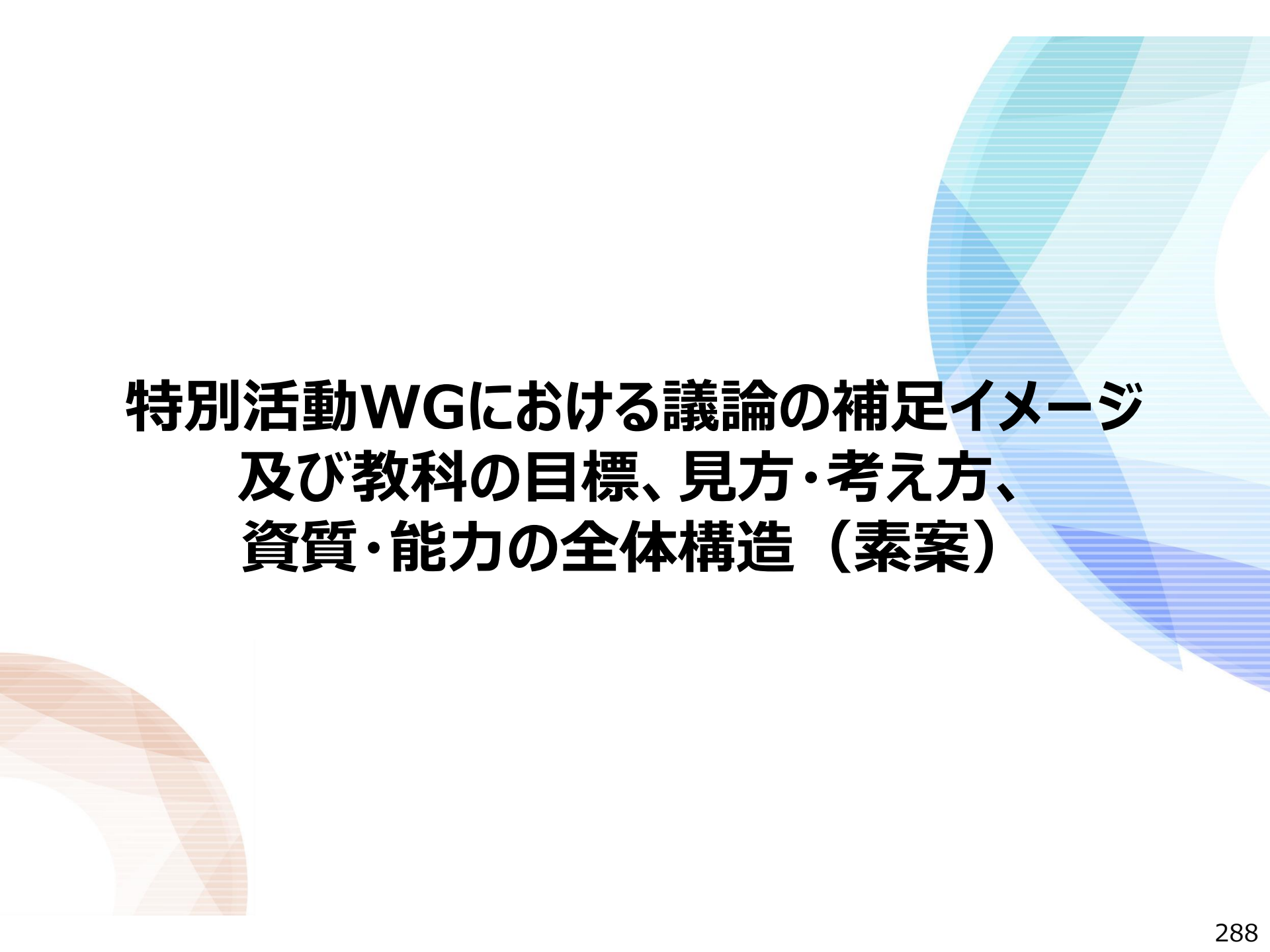
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究のよさを理解できるようにする。	実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を活用しながら、探究の過程を通じて課題を解決し、自分なりの新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。	・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする ・他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする ・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自らの学びを調整しようとする ・自己の生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会を実現しようとする
中学校	探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義を理解できるようにする。	実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を効果的に活用しながら、課題に応じた探究の過程を通じて課題を解決し、自分なりの新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。	・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己や他者にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする ・多様な他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする ・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自覚的に学びを調整しようとする ・自己の生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会の実現に向けて行動しようとする
高等学校	探究の過程において、課題の発見・解決に必要な知識及び技能を身に付け、統合的に課題に関わる概念を形成し、探究の意義を理解できるようにする。	実社会・実生活と自己との関わりから問いを見だし、必要な知識及び技能、様々な方略を総合的に活用しながら、課題に応じた探究の過程を通じて課題を解決し、自己や他者にとっての新たな意味や理解の深まりを表現できるようにする。	・体験や経験を通して生まれた興味・関心や問題意識を、自己や他者、社会及び将来にとっての意味の視点で捉え、探究の過程で課題として洗練しようとする ・多様な他者との対話や協働によって、よりよく課題を解決しようとする ・探究の進め方を工夫したり、探究の過程を振り返ったりして、自律的に学びを調整しようとする ・自己の在り方生き方についての考えを深め、探究を通じて豊かな人生や持続可能な社会を創造しようとする

見方・考え方

- ・ 実社会・実生活との関わりの中で見いだす興味・関心や問題意識に基づく課題を、横断的・総合的な視点から捉え、新たな価値を創造し、自分らしい生き方を問い続けること

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	情報の領域（仮称）	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	統合的な発揮
	情報技術の正負の側面を含む特性の理解をもとに、情報技術を適切かつ効果的に活用することで、デジタル社会における様々な課題を解決できることを理解する。	情報技術の正負の側面を踏まえ、情報技術を情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などに適切かつ効果的に活用して、デジタル社会における身近な課題を解決できる。
	内容項目例	内容項目例
	①情報技術の活用 ②情報技術の適切な取扱い ③情報技術の特性の理解	①情報技術の活用 ②情報技術の適切な取扱い ③情報技術の特性の理解



特別活動WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）

目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	- 自己の生活や身近な社会、人間関係をよりよくすることの意義について理解する。 - 多様な他者とよりよく合意形成や意思決定を行ったり協働的に実践したりするための行動の仕方を身に付ける。	- 自己の生活や身近な社会、人間関係についての課題を見だし、根拠を持って自己の意見や立場を形成し、表現することができるようにする。 - 多様な個性や特性、背景を有する他者の考えや価値観を尊重し、対立や葛藤を乗り越えながら合意形成や意思決定を行い、実践を通して価値の創造を行うことや、振り返りを通して新たな課題を見いだすことができるようにする。	- 自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、興味・関心に応じて役割や責任を担おうとする。 - 多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。 - 省察により思考や感情、行動を調整する。 - 自己の生き方についての考えを深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。
中学校			- 自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、社会との関係において役割や責任を担おうとする。 - 多様な他者との対立や葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。 - 省察により思考や感情、行動を調整する。 - 人間としての生き方についての考えを深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。
高等学校			- 自己の生活や身近な社会の課題解決に主体的に関わり、社会における役割や責任を担おうとする。 - 多様な他者との対立や複雑な葛藤を乗り越え、対話や協働を通じて納得解を形成しようとするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる。 - 省察により思考や感情、行動を調整する。 - 人間としての在り方生き方についての自覚を深め、主体的によりよい社会の創造や自己実現を図ろうとする。

見方・考え方

- 自己の生活や身近な社会における課題を社会創造、自己実現及びそれらの基盤としての人間関係形成の視点から捉え、社会を形成する当事者として多様な他者と協働し、自他のよりよい人生や社会生活につなげること。

資質・能力の全体構造（素案）

学級活動/ホームルーム活動 （１）学級や学校における生活づくりへの参画

高次の資質・能力

学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見だし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

高次の資質・能力

学級や学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見だし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

高次の資質・能力

ホームルームや学校での生活をよりよくするために合意形成を図り、役割を分担しながら協力して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。

- 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見だし担おうとする
- 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる
- 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する

内容項目例

- ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
- イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

資質・能力の全体構造（素案）

学級活動/ホームルーム活動（2）日常の生活や学習への適応と自己成長及び健康安全、（3）一人一人のキャリア形成と自己実現	
小学校	高次の資質・能力
	学級での話し合いを生かして現在と将来の自己実現に向けて意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(2) ア 基本的な生活習慣の形成 イ よりよい人間関係の形成 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 (3) ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
中学校	高次の資質・能力
	学級での話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 社会との関わりでの自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の生き方につなげようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(2) ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 (3) ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計
高等学校	高次の資質・能力
	ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題を解決したり将来の生き方を描いたりするために意思決定して実践することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 社会の形成者としての自己の生活上の課題や興味・関心に目を向け、主体的に行動し現在及び将来の自己の在り方生き方につなげようとする ○ 他者の視点を通じて、自己の価値観や思考を広げようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(2) ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 イ 男女相互の理解と協力 ウ 国際理解と国際交流の推進 エ 青年期の悩みや課題とその解決 オ 生命の尊重と心身共に健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 (3) ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解 イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用 ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 エ 主体的な進路の選択決定と将来設計

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	児童会/生徒会活動
	高次の資質・能力
	異年齢の児童で協力し、学校生活の充実と向上を図るため、計画を立て役割を分担し、協力して取り組むことを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらをよりよく見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例 (1) 児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営 (2) 異年齢集団による交流 (3) 学校行事への協力
中学校	高次の資質・能力
	異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例 (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2) 学校行事への協力 (3) ボランティア活動などの社会参画
	高次の資質・能力
高等学校	異年齢の生徒で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して学校運営に関わることを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他のよりよい生活づくりに向け、主体的に役割を見いだし担おうとする ○ 身近な生活上の課題や地域社会の課題を解決しようとする中で、対立や葛藤を乗り越え納得解や暫定解を形成し、それらを不断に見直そうするとともに、多様な個性や価値観の包摂に主体的に関わる ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例 (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営 (2) 学校行事への協力 (3) ボランティア活動などの社会参画
	高次の資質・能力

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	学校行事
	高次の資質・能力
	全校又は学年の児童で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見だし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
中学校	内容項目例
	(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事
	高次の資質・能力
高等学校	高次の資質・能力
	全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見だし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事
高等学校	高次の資質・能力
	全校又は学年の生徒で協力し、学校生活に変化と活力を生み出し、よりよい学校生活に資する体験的な活動を主体的に創造することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 自他の学校生活の充実と発展に向け、学校行事の意義を踏まえて主体的に役割を見だし担おうとする ○ 計画・準備・実践・振り返りの過程における対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら、協働して活動を創造しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	(1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事

資質・能力の全体構造（素案）

小学校	クラブ活動
	高次の資質・能力
	異年齢の児童で協力し、共通の興味・関心を追求する活動を計画し、主体的に運営することを通して、以下の資質・能力を育む。 ○ 共通の興味・関心をよりよく追求するため、主体的に役割を見だし担おうとするとともに、自他の個性の伸長を図ろうとする ○ 共通の興味・関心を追求する上での対立や葛藤を乗り越え、多様な個性や価値観を生かしながら協働して活動しようとする ○ 自他の意見や価値観を捉え直し、自己の思考や感情、行動を調整する
	内容項目例
	（１）クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営 （２）クラブを楽しむ活動 （３）クラブの成果の発表

**道徳WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

目標、見方・考え方（素案）

目標

	特別の教科 道徳
小学校	第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
中学校	第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

**情報・技術WGにおける議論の補足イメージ
及び教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

中学校情報・技術科（仮称）で扱う領域の改善イメージ

現状

学校教育法に規定する「情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養う」観点から、現代社会で活用されている多様な技術を四つの領域に整理し、内容を構成

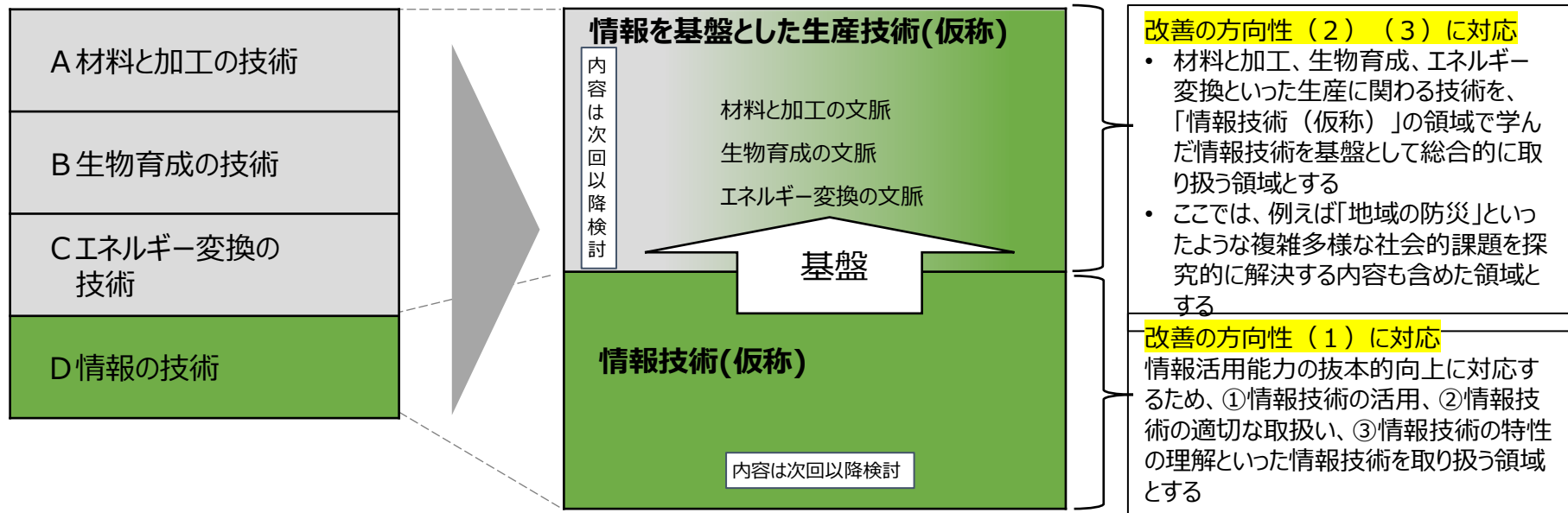
領域設置の考え方

- デジタル技術が急速に発展している中、これからの時代を生きる子供たちは、社会の重要なインフラとなる情報技術をより広範かつ深く学ぶ必要性が格段に高まっており、論点整理も踏まえ、情報技術を重点的に扱う独立の領域を設置する必要
- 一方、情報技術以外の生産技術（現行のA材料と加工の技術・B生物育成の技術・Cエネルギー変換の技術）も、情報技術が生み出す価値を現実の生活や社会で具体化する、引き続き不可欠な技術(※1)
- 生産技術のニーズが情報技術を発展させる側面もあり(※2)、両者は相互に補完しながら豊かな生活や社会を実現する関係にある。社会のデジタル化が進む中、情報技術と生産技術と掛けあわせた学びがより一層重要
- 加えて、生産技術の3領域も、多様化・複雑化する生活や社会の問題に対応できるよう、それぞれを単独で扱うのではなく、横断的かつ探究的に学習(※3)を進めることが不可欠
- 以上を踏まえ、情報・技術科（仮称）では、生産技術を基盤として支える「**情報技術（仮称）**」の領域を設置するとともに、情報のみならず生産技術間も横断して、探究的に学ぶことも重視する観点も踏まえ、「情報を基盤とした生産技術（仮称）」の領域を設置し、2つの領域構成に改善してはどうか

※ 1 例えば、3D CADなどで設計した複雑な形状の部品を3Dプリンタを活用して具現化する

※ 2 例えば、より小型化・軽量化された電子部品を開発することで、それを利用したより高度な計測・制御機器の開発が可能になるなど

※ 3 地域防災などに活用するA・C領域を横断した人命救助ロボットの開発や、作物の育成環境を最適に調整するためのA・B・C領域を横断したスマート農業など



※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意

中学校情報・技術科（仮称）の内容構成（案）

- 各内容項目の中で技術の学習過程（①技術の原理と仕組み、②技術による問題解決（問題と課題の設定→構想→制作等→評価・改善）、③技術の社会における吟味と活用）を順序性（ア）～（ウ）をもって示すとともに、それぞれの下に個別の「知識及び技能」やそれに対応する「思考力、判断力、表現力等」が列挙される階層構造としてはどうか
- また、学習過程を分かりやすく捉えられるよう、以下の通り見出し化（ア）～（ウ）するとともに、的確な用語で共通性を示してはどうか（※本資料では現行の A 領域を例示しているが、B～D 領域も同様の構成）

現行の内容項目

技術の学習過程は、A～Dの各領域に通底して働く基本的な考え方であるが、現行の記載では、その共通性が必ずしも十分に表現されていない

A 材料と加工の技術

- （１）生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。（知識・技能）
イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。（思考力・判断力・表現力等）

内容項目の見出しが端的でなく学習過程を示す記述もないため、見出しだけでは学習過程（左記であれば、①技術の原理と仕組み）を把握しづらい

- （２）生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア ～個別の（知識・技能）に関する文章～
イ ～個別の（思考力・判断力・表現力等）に関する文章～

- （３）これからの社会の発展と材料と加工の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

- ア ～個別の（知識・技能）に関する文章～
イ ～個別の（思考力・判断力・表現力等）に関する文章～

新しい内容項目（案）

1. 情報技術(仮称)

- （１）計測・制御のプログラミングとシステム化（仮称）**

- （ア）情報技術の原理と仕組み（仮称）**
（イ）情報技術による問題解決（仮称）
（ウ）社会における情報技術の吟味と活用（仮称）

- ※その他の内容項目においても同様の構造とし共通性を表現
※（ア）～（ウ）のそれぞれに個別の（知識・技能）と（思考力・判断力・表現力等）がぶら下がる

（ア）：情報技術に関する原理や法則、基礎的な仕組みを理解する

（イ）：解決すべき課題の設定、解決策の構想・具体化、解決のための制作、解決策の評価・改善をする

（ウ）：（イ）までの学習を通じて、当該情報技術の概念の理解を深め、豊かで包摂的な生活や社会の実現に向けた技術の吟味、選択、管理・運用、改良、応用について考える

- （２）コンテンツとデータ（仮称）** **（３）情報技術の発展と社会（仮称）**

情報活用能力育成の観点から整理した資質・能力の体系性に基づき、必要な内容を漏れなく（１）～（３）の３つの分野に配置

既習の内容を踏まえ、技術の領域や分野にとらわれず、実生活・実社会の課題に対し最適な技術を判断・活用して探究的に解決する内容（※論点整理の改善の方向性（３）に対応）

2. 情報を基盤とした生産技術(仮称)

- （１）材料と加工(仮称)** **（２）生物育成(仮称)** **（３）エネルギー変換(仮称)** **（４）総合実習（仮称）**

高等学校情報科の科目構成の改善イメージ

現状

情報活用能力を全ての生徒に育む共通必修科目としての情報Ⅰと、情報Ⅰで培った基礎の上にコンテンツを創造する力などを育む選択科目としての情報Ⅱを設置

改善の方向性

- 抜本的に充実する中学校 情報・技術科(仮称)に内容を一部移行するが、一方で、高等教育の数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルを概観できるよう内容を充実することを踏まえると、指導内容の分量は現行と大きく変わらないことが見込まれることから、引き続き**情報Ⅰを存置**しつつ、生徒が興味関心をもって学べるよう実践的・探究的な内容を充実させてはどうか
- また、情報Ⅰが共通必修科目となったのは前回改訂時であること、大学入学共通テストに追加されたのは令和7年度であることから、**安易な科目構成の変更は現場の混乱を招くことも考慮する必要**

情報Ⅰ

- (1)情報社会の問題解決
- (2)コミュニケーションと情報デザイン
- (3)コンピュータとプログラミング
- (4)情報通信ネットワークとデータの活用

情報Ⅰ

※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意

【現状】

- 平成30年改訂では、初めての共通必修科目として「情報Ⅰ」を設けられた
- 令和7年度入試より、大学入学共通テストに「情報Ⅰ」が追加された

- 情報Ⅰで培った基礎の上に選択科目としての**情報Ⅱを設置**する考え方は維持してはどうか
- その上で、現場のニーズに応じて、**より高度な情報活用能力の育成を図れるようにし**、生徒や地域の実情に応じた**特色・魅力ある教育を実現**するため、情報Ⅱは**各学校において、実社会の課題を探究的に解決する内容を充実**させられるよう(※)、一定の幅の範囲内で**単位数を配当**できることとしてはどうか

情報Ⅱ

- (1)情報社会の進展と情報技術
- (2)コミュニケーションとコンテンツ
- (3)情報とデータサイエンス
- (4)情報システムとプログラミング
- (5)情報と情報技術を活用した問題発見・

【課題】 解決の探究

- 学校や地域の実情によって設置率に大きな格差があると考えられる
- 一方、「情報Ⅱ」を設置している学校には、生徒の特性に応じてさらに**探究的な学びを増やしたい**等のニーズがある

情報Ⅱ

※理数探究や総合的な探究の時間も一定の幅の範囲内で単位数を配当する仕組みとなっている。

教師の指導力向上や環境整備など指導体制の改善が必要
(※今後のWGで検討)

例えば、仮に上限まで配当した場合、地域に実在する課題に対し、データやAIを活用し、ユーザ調査などからシステムの実装、評価まで行うような、応用基礎レベルのPBL学習を長期的に展開できる

高等学校情報科の内容構成の改善イメージ

- 現行の内容構成には以下のような課題が存在
 - 高等教育の数理・データサイエンス・AI教育との関係を踏まえると、AIやデータの扱いについて学ぶ内容が不十分 (①)
 - 探究的・実践的な学びが不十分 (②)
 - 一部内容(ex.情報やコンピュータ等)を複数の項目で扱っているため重複が発生しており、体系的が不明確 (③)
- 内容構成について、現状の課題 (①～③) を改善しつつ、第二回情報・技術WGにおいて整理した体系を基に引き続き扱うべき内容項目を高度化(※)すること (④) を踏まえ、例えば次ページのように組み替えることを検討してはどうか
(※)小・中において抜本的に内容を充実することから、その接続として、高校段階でもより高度な内容を扱える
- なお、情報活用能力育成の抜本的充実として小・中との系統性がより一層重要となることを踏まえ、情報科では引き続き学習内容を基に分類する構成としてよい

科目構成・内容構成イメージを踏まえた情報Ⅰ・Ⅱの関係性

- 科目構成の改善イメージや内容構成の改善イメージを踏まえた、**情報Ⅰ**と**情報Ⅱ**の各内容項目の関係性は以下のとおり考えられる

(1) 情報の仕組みと社会との関わり (仮称)

中学までの学習の全体とAIの基本と社会とのかかわりを概念的に理解する

(2) 情報デザインとデザイン思考 (仮称)

情報を効果的に伝える手法等を知り、ユーザーを意識した作品制作を学ぶ

(3) データ分析とモデル化・シミュレーション (仮称)

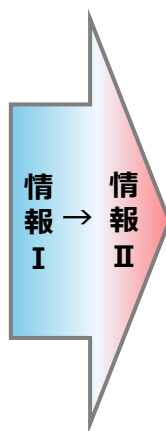
データ分析の基本を学び、問題解決のためのモデルを考えてシミュレーションする

(4) アルゴリズムとシステム開発 (仮称)

ユーザーへの影響を考慮してアルゴリズムを考え、システム開発をする

(5) 情報及び情報技術を活用した課題探究 (仮称)

探究的な学びを通して上記を総合的に発揮する



(1) 社会課題とデータサイエンス (仮称)

Ⅰの発展的な内容と社会課題に資するデータサイエンスの手法を深く学ぶ

(2) コンテンツデザイン (仮称)

Ⅰの内容を活かし、設計や評価の手法を学び質の高いコンテンツ制作をする

(3) AI (仮称)

ⅠとⅡ(1)データサイエンスの内容を活かし、大量のデータを扱う機械学習等のAIの仕組み・ガバナンス等を学ぶ

(4) 先端技術と情報システムデザイン (仮称)

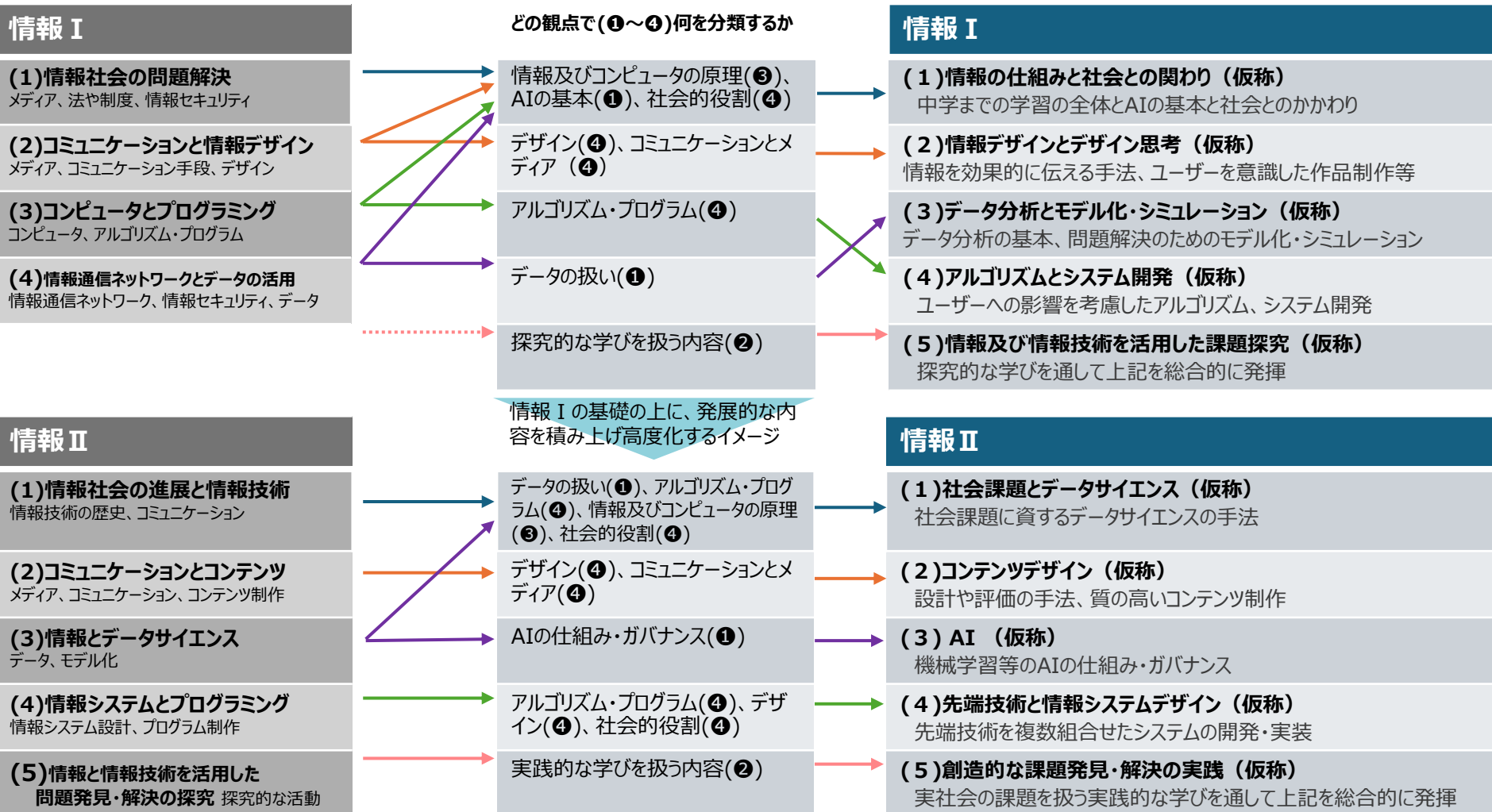
ⅠとⅡ(1)～(3)の内容を活かし、メタバースやAIなどの先端技術を複数組合せてシステムを開発し実装する

(5) 創造的な課題発見・解決の実践 (仮称)

実社会の課題を扱う実践的な学びを通して上記を総合的に発揮する

高等学校情報科の内容構成の改善イメージ図

● 前頁で示した検討の方向性に基づいた内容構成の改善イメージを以下のとおり図示



※高校段階で特に重視する「③情報技術の特性の理解」を中心に学習内容ベースで取り扱う内容を例示

※名称等はいずれも現時点での例示であり、次回以降の検討によって変わり得ることに留意

情報活用能力として育成すべき資質・能力を体系的に整理するイメージ

- 情報活用能力の学習の基盤としての位置付け、情報活用能力の範囲、情報技術の変動性に留意しつつ、情報活用能力の構成要素別に（情報技術の①活用、②適切な取扱い、③特性の理解）、各学校段階で育成すべき主な資質・能力の例を以下のとおり「**知識及び技能**」と「**思考力、判断力、表現力等**」に整理してはどうか

小学校

中学校

高等学校

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等

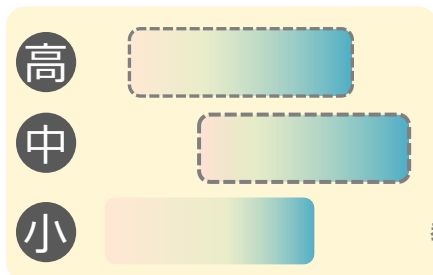
① 情報技術の活用	課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現 基本的な操作	小学校		中学校		高等学校	
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
② 情報技術の適切な取扱い	法や制度	・多様な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータを整理し傾向を把握する方法を身に付ける ・目的に応じた表現技能を身に付ける ・情報技術の適切な操作を身に付ける	・適切な方法で情報やデータを収集・整理し傾向を明らかにしたうえで、目的に応じて効果的に表現し、身近な課題を解決できる	・効率的な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータの統計的な分析の方法を身に付ける ・複数の情報技術を組み合わせた表現技能を身に付ける	・複数の手段により効果的に収集した情報やデータを統計的に分析し根拠を判断したうえで、適切な情報の加工をもって課題を解決できる	・組み合わせによる効果的な情報収集の方法を身に付ける ・情報やデータを構造化し科学的に分析し論理的に考察する方法を身に付ける ・情報技術を統合した効果的な表現技能を身に付ける	・情報技術の特性や信頼の多面性を踏まえ、情報やデータを統計的・多角的に分析し根拠を判断したうえで、解決策を論理的に構成・適切に表現し、効果的な議論を経て課題を解決できる
	倫理	・自他の権利やルール、マナー、セキュリティを理解する ・生活や健康への影響、安全管理を理解する ・メディアにより情報や印象が異なること、誤情報・悪意のある情報もあることを理解する	・権利と責任、ルールとマナー、セキュリティ、情報技術の活用による影響等を踏まえて適切に行動することができる	・権利に係る基本的な法制度や責任を理解する ・倫理的配慮や情報セキュリティの基本を理解する ・心身を含むリスク評価と適切な対処を理解する	・法や倫理等を多面的に考え、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスクを評価して適切に行動することができる	・法・制度の意義や責任を理解する ・倫理的な配慮を踏まえた適切な活用に関し理解する ・情報セキュリティを踏まえたリスクと利便性の評価・管理を理解する	・法・制度の意義や倫理的課題を考察し責任をもつことや、情報セキュリティを踏まえつつ、情報技術のリスク、利便性、信頼性等を評価して適切に行動することができる
	安全	・生成AIを含む情報技術の基本的な仕組みや特性を理解する ・コンピューターに指示するために必要な手順を理解する	・情報技術の特性を踏まえ、プログラミング的思考に基づき、身近な課題の解決策を表現することができる	・情報技術の仕組みを理解する ・AIの仕組みと社会での活用を理解する ・アルゴリズムの理解と構造的な表現方法を身に付ける ・ユーザ視点の情報デザインを理解する ・データの効率的な管理・活用の仕方を身に付ける ・メディア特性が受信・発信に与える影響を理解する ・技術による社会のシステム化を理解する	・情報技術の仕組みや特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、メディアの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における課題を多面的に分析して解決策を構想・表現することができる	・情報技術の原理を科学的に理解する ・AIの特性と課題を踏まえた活用の方法を身に付ける ・アルゴリズムやシステム構築の設計と評価の方法を身に付ける ・ユーザ中心の情報設計・評価の方法を身に付ける ・データの科学的分析・解釈や、モデル化、シミュレーションを理解する ・メディア・ツールの統合・活用の方法を身に付ける ・技術発展の影響を多面的に理解する	・先端技術を含む情報技術の原理や特性を踏まえ、AIやアルゴリズム、情報デザイン、データ分析、モデリング、シミュレーション、メディア・ツールの活用と社会的視点を統合し、生活や社会における専門的な課題を分析的に捉えて、解決策を創造的に構想・表現することができる
③ 情報技術の特性の理解	情報及びコンピュータの原理 AI アルゴリズム・プログラミング デザイン データの扱い コミュニケーションやメディア 社会的役割						

情報活用能力の育成に係る各教科等の関係

情報活用能力の育成を担う核となる教科等

現行の学習指導要領

指導内容が不十分
小中高校通じた育成体系が不明確



主に情報科で育成

主に技術・家庭科の技術分野の
一領域（情報の技術）で育成

教科等に明確な位置付けがない

デジタル学習基盤が前提となっていない

次の学習指導要領

情報活用能力を体系的に整理し、
主として核となる教科等で育成する
(※)ただし、一部教科では当該教科の資質・能力
育成の観点から引き続き担うものもある



情報科の内容をさらに充実

情報・技術科（仮称）を創設

総合に情報の領域（仮称）を付加

デジタル学習基盤が学習の前提

情報活用能力を体系的に整理・構造
化し、育成すべき資質・能力を明確に

核となる教科等以外の各教科等

現行の学習指導要領

各教科等の指導の中で、当該学習活
動に必要な情報活用能力のみ取り扱う



例) 小学校 社会 第 5 学年
聞き取り調査をしたり映像や新
聞などの各種資料で調べたりし
て、まとめることを学ぶ際、
コンピュータなどを適切に使って
情報を集める技能も身に付ける
ようにすることが大切とされており
（解説）、社会の授業でコン
ピュータなどを使った情報収集
の方法を指導している

次の学習指導要領

情報活用能力は核となる教科等において
育成されている前提で、各教科等を指導



左記の例の場合、コンピュータなど
を使った情報収集に関する内容は、小
学校総合の情報の領域（仮称）で
学ぶこととなり、社会ではこれを学ん
でいる前提で、調べまとめる学習を行
える

その他、小学校算数におけるプログラ
ミング教育などもこれに該当

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
中学校	- 情報技術や生産技術の特性及び適切な取扱いについて理解する。 - 情報技術や生産技術でものを生み出す方法を理解し、必要な技能を身に付ける。 - 情報技術や生産技術の発達と生活や社会、環境との関係についての理解を深める。	- 生活や社会の問題を技術の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、情報技術や生産技術を活用して、課題を設定する力を養う。 - 検証等を通じて探究的に解決策を構想・具体化する力を養う。 - 仕組みや価値を創造して課題を解決するとともに、そうした実践を評価・改善する力を養う。	- 生活や社会の技術に関心や好奇心を持ち、多様な他者の発想や価値観を尊重し協働しながら試行錯誤と改善を繰り返し、より良い問題解決に向かおうと探究する態度を養う。 - 包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術や生産技術の在り方を責任を持って多角的に判断し、進んで活用、創造しようとする意思や感性を育む。

見方・考え方

- 生活や社会における問題を、技術的視点から正負の両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術及び生産技術を適切に活用したり、創造したりすること

資質・能力の全体構造（素案）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
中学校	情報技術（仮称）	① 計測・制御のプログラミングとシステム化（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術により情報処理の手順を自動化することで、人の判断や活動を助け、利便性を高められることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、自動化する情報処理の手順を設計し、人の判断や活動を助ける仕組みを表現、評価・改善できる。
		② コンテンツとデータ（仮称）	内容項目例	内容項目例
			- コンピュータ、情報のデジタル化、ネットワーク、AIの仕組み、アルゴリズムとプログラム - 著作権、肖像権などの権利、基本的な法・制度とその責任 - 効率的かつ注意深く情報を収集する方法 - アジャイルでのプログラミングによる問題解決の方法と技能 - コンピュータやネットワーク、AIと生活や社会、環境との関係の理解	- コンピュータやネットワーク、AI等の仕組みと取扱いを考え表現すること - コンピュータやネットワーク、AI等の仕組みと取扱いを踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、処理の手順を自動化することで解決するものを設計して構築する - 情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える
			統合的な理解	総合的な発揮
			情報やデータから新たな関係や意味を批判的に見いだしたり、利用者の立場で情報を吟味・設計したりすることで、分析結果や自分の考えを分かりやすく伝えられることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報やデータの分析結果を批判的に判断し表現したり、利用者にとって分かりやすい情報を吟味・設計し表現、評価・改善したりできる。
	情報技術（仮称）	③ 情報技術の発展と社会（仮称）	内容項目例	内容項目例
			- ユーザ視点の情報デザイン - データの管理と活用 - エコーチェンバー・フィルターバブルといったメディア特性が受信・発信に与える影響 - 偽情報・誤情報の判別や必要な情報の精査 - 情報やデータの統計的な分析の方法 - コンテンツによる問題解決の方法と技能 - データやメディアを扱う技術と生活や社会、環境との関係の理解	- コンテンツやメディア等を実現する技術の仕組みや特性を踏まえた適切な取扱いを考え表現する - コンテンツやメディア等を実現する技術の仕組みや特性を踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、情報を加工することで解決する表現の手段を設計して表す - 情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える
		③ 情報技術の発展と社会（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術や多様な技術が組み合わさり情報システムが構築されることを捉え、情報技術を活用して情報システムを情報の信頼性や社会に与える影響に配慮しながら評価・改善することで、包摂的で豊かな生活や社会につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報技術を基盤とする多様な技術を組み合わせ、倫理・法・社会の観点を考慮して問題を解決するための情報システムを構築し表現、評価・改善できる。
			内容項目例	内容項目例
			- 複数の情報技術を組み合わせた表現技能 - 健康への影響など心身を含むリスク評価と適切な対処の理解 - 技術による社会のシステム化の理解 - プログラミングなどによる技術の統合 - 情報技術によるシステム化と生活や社会、環境との関係の理解	- 情報技術によるシステム化の仕組みと取扱いを考え表現する - 情報技術によるシステム化の仕組みや特性を踏まえ、問題を見い出して課題を設定し、情報技術によって技術同士をつなぐことによって解決するものを構想してモデルを提示する - 情報技術の正負の側面に配慮しつつ吟味し、その活用や創造を考える

資質・能力の全体構造（素案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
中学校	情報を基盤とした生産技術（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
		材料の加工や構造を工夫することにより、身の回りのものがつくられ、安全で利便性の高い生活につながることを理解する。	安全性等に配慮しつつ、材料を選択・設計し、意図した形や構造に加工することで、生活に役立つものを製作し表現できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 材料と加工の技術の役割と特性の理解 - 人間工学に基づいた機能、構造、形状の設計とCADの操作 - 製作の技能 - 材料と加工の技術と生活や社会、環境との関係の理解	- 材料と加工の技術の仕組みと取扱いを考え表現する - 技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、解決策となる材料や形状、構造等をデジタル加工機の利用も考慮して設計し、製作する - 技術を吟味し、その活用や創造を考える
		統合的な理解	総合的な発揮
		生物の育成環境を調整することで、一定の食料の供給や、環境の保全を実現し、安定的な生活を目指すことを理解する。	環境負荷等に配慮しつつ、育成環境の調整方法を計画し、収量と品質を高めるための方策を判断し実践できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 生物育成の技術の役割と特性の理解 - データを利用した環境調整と育成計画 - 状況に応じた管理作業 - 生物育成の技術と生活や社会、環境との関係の理解	- 生物育成の技術の仕組みと取扱いを考え表現する - 技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、データ等を参考に生物の育成環境を人為的に調整する方法を計画し、作業を実行する - 技術を吟味し、その活用や創造を考える
	情報を基盤とした生産技術（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
		エネルギーを変換することで、人の作業を助け、発電電や交通等の生活基盤の利便性につながることを理解する。	経済性等に配慮しつつ、エネルギーを変換する仕組みを設計し、安全で安定した動作を製作し表現できる。
		内容項目例	内容項目例
		- エネルギー変換の技術の役割や特性の理解 - シミュレーションを用いた回路や機構の設計とCADの操作 - 組み立て、実装、保守・点検の技能 - エネルギー変換の技術と生活や社会、環境との関係の理解	- エネルギー変換の技術の仕組みと取扱いを考え表現する - 技術の正負の影響を踏まえて、問題を見い出して課題を設定し、シミュレーションを利用してエネルギー変換する仕組みを設計し、製作する - 技術を吟味し、その活用や創造を考える
		統合的な理解	総合的な発揮
		情報技術を基盤とする多様な技術が組み合わさり構築された仕組みを評価・改善することで、豊かな生活や社会につながることを理解する。	安全性や環境負荷、経済性等に配慮しつつ、多様な技術を組み合わせ、問題を解決するための仕組みを探究的に設計し表現できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 問題と課題の定義 - 技術の統合 - 技術の役割と影響 - アイデアの創出と検証 - 成果の評価と改善・修正	- 技術の正負の影響を踏まえて、社会から問題を見い出して課題を設定し、情報技術を基盤として技術を統合することで解決するモデルを設計し、具体化する - 技術を吟味し、その活用や創造を考える

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	- 情報技術の仕組みや情報の特性、情報技術を活用して問題を見・解決したり価値を創造したりする方法などを理解し技能を身に付ける。 - 社会における情報技術の役割や関係する法や制度、倫理的課題への理解を深める。	生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり価値を創造したりする力を養う。	- 生活や社会を情報の観点から進んで捉えて関心をもち問題を発見し、他者の多様な視点を取り入れながら協働的に解決策や表現を考えるとともに、試行錯誤と評価・改善を重ね、次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 - 情報技術の活用を通して、包摂的で豊かな社会の実現に向けて責任ある行動を取ろうとする情意・感性を養う。

見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点から正負両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、価値を創造したりすること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	- コンピュータや情報通信ネットワークの仕組み、情報の特性、情報デザイン、データの活用、アルゴリズム、AI、情報セキュリティなどを理解し技能を身に付ける。 - 情報技術と社会とのかかわり、関係する法や制度への理解を深める。	生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、論理的に分析・整理し、根拠に基づいて問題の解決や価値の創造につなげる力を養う。	- 生活や社会を情報の観点から進んで捉えて関心をもち問題を発見し、他者の多様な視点を取り入れながら協働的に解決策や表現を考えるとともに、試行錯誤と評価・改善を重ね、次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 - 情報技術の活用を通して、包摂的で豊かな社会の実現に向けて責任ある行動を取ろうとする情意・感性を養う。

見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点から正負両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、価値を創造したりすること

資質・能力の全体構造（素案）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	情報Ⅰ	(1) 情報の仕組みと社会との関わり (仮称)	統合的な理解	総合的な発揮
			情報技術の仕組みや社会との関係を全体的に捉えることで、安全や社会的責任に配慮して情報を活用できることを理解する。	生活や社会を支える情報技術の正負の側面に配慮し、社会的責任を考慮して情報を活用できる。
			内容項目例	内容項目例
	情報Ⅰ	(2) 情報デザインとデザイン思考 (仮称)	- コンピュータ・ネットワークの基本構成 - AI等の先端技術の利点と限界 - 個人情報保護、著作権 - 情報セキュリティ、モラル - 情報技術と社会や生活とのかかわり - 情報の信頼性や妥当性 - 偽情報・誤情報といった情報のリスク	- 情報処理や通信の仕組みから利便性とリスクを多面的に考えること - コンピュータや通信技術の発展が社会に与える影響と活用の可能性を考えること - 情報技術の活用において他者の権利や社会的責任を考慮し、安全で公正な行動を考えること
			統合的な理解	総合的な発揮
			情報の受け手の視点に立ち、情報を吟味し、分かりやすく情報を表現することが、受け手の円滑な理解や行動を促すことを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって適切な理解や行動を促す情報を吟味・設計・表現し、評価・改善できる。
	情報Ⅰ	(3) データ分析とモデル化・シミュレーション (仮称)	内容項目例	内容項目例
			- 情報表現の構造 - ユーザー中心設計の基礎 - ユーザビリティ、アクセシビリティ - 情報デザインに関するツールや技法 - 生成AIを活用した文章・画像・音声生成 - デザイン思考の考え方 - プロトタイピングの基本 - フィードバックの収集と評価方法	- 目的やユーザーの課題を整理し、解決策を設計・表現すること - 目的に応じたツールや方法を検討し、適切な表現を論理的に構成すること - フィードバックを根拠に改善すること
			統合的な理解	総合的な発揮
	情報Ⅰ	(3) データ分析とモデル化・シミュレーション (仮称)	データを整理・分析して批判的に関係を見いだしたり、事柄の特徴を抽出して単純化したりすることが、未知の傾向や結果の予測につながることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データから見いだした関係や単純化した事柄から傾向や結果を予測し、批判的に傾向や結果を予測し、判断・表現できる。
			内容項目例	内容項目例
			- データの種類や特徴 - 表やグラフを用いた可視化の方法 - 分析結果の整理 - モデル化の方法 - シミュレーションの方法	- 必要なデータを判断して収集・整理し、分かりやすく可視化すること - データの妥当性を判断すること - 複数のデータを比較・分析し、結果の意味を解釈すること - 現実の事象をモデル化し、シミュレーションを踏まえて判断すること

資質・能力の全体構造（素案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	情報Ⅰ	統合的な理解	総合的な発揮
		情報システムの構成を捉え、手順や条件に分解することで、その妥当性や改善可能性を判断できることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報システムを手順や条件に分解して表現し、評価・改善できる。
		内容項目例	内容項目例
		- アルゴリズムを表現・記述する方法 - プログラミングの方法 - 小規模なシステムの設計・開発、テスト・デバック - プログラムの改善	- ユーザーへの影響を考慮し、処理の手順や条件を工夫してアルゴリズムを表現すること - システムを開発し、実装結果を分析して改善すること
	(5) 情報及び情報技術を活用した課題探究（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
		一定の制約の下でプロジェクトを管理・進行して評価・改善し、目的を達成するプロセスを、情報技術の活用により探究的に試行することで、実社会における課題解決や価値創造できることを理解する。	プロジェクトを管理・進行して評価・改善し、目的を達成するプロセスを、情報技術の活用により探究的に試行することを通して、実社会の課題の解決や価値を創造する方策を考察し表現できる。
内容項目例		内容項目例	
		- プロジェクト・マネジメントの方法 - 情報デザイン、データ分析、アルゴリズムやシステムの考え方などを組み合わせて、情報を収集・整理・分析し、検証・改善を行う方法	- 生活や社会の課題解決について、他者と協働しながら探究的に進めること - 情報技術を活用して課題解決や価値創造に向けた検証や改善を行うこと - 成果をわかりやすく発信すること

高等学校各科目の目標（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校	- データサイエンスやAI、デザイン、システムなどの理解を発展的に深め技能を身に付ける。 - 情報技術が社会の発展にもたらす影響、関係する法や制度への理解を深める。	生活や社会を情報の観点から正負の両面を含め多角的に捉え、科学的な理解に基づき情報技術を適切かつ効果的に活用して、論理的・構造的に分析・整理し、根拠に基づいて問題の解決や価値を創造する力を養う。	- 生活や社会を情報の観点から進んで捉えて関心をもち問題を発見し、他者の多様な視点を取り入れながら協働的に解決策や表現を考えるとともに、試行錯誤と評価・改善を重ね、次の学びにつなげていこうと探究する態度を養う。 - 情報技術の活用を通して、包摂的で豊かな社会の実現に向けて責任ある行動を取ろうとする情意・感性を養う。

見方・考え方

- 事象を、情報とその結び付きの視点から正負両面を含め多角的に捉え、包摂的で豊かな生活や社会の実現に向けて、情報技術を適切に活用し、問題を発見・解決したり、価値を創造したりすること

資質・能力の全体構造（素案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	データサイエンス （仮称） （1）社会課題と	統合的な理解	総合的な発揮
		多様なデータを整理・分析して得られる新しい傾向や予測を批判的に考察し、社会的責任に配慮した課題解決の方策を見いだせることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、データを整理・分析して得られた傾向や予測を批判的に考察し、社会的責任を考慮して課題解決の方策を判断できる。
		内容項目例	内容項目例
	コンテンツデザイン （仮称） （2）	- データサイエンスによる課題解決 - データハンドリング - データ構造 - プログラミングを用いたデータ処理 - 時系列・テキスト・画像データの分析 - 種類に応じた分析手法 - 複数の分析結果の整理・統合方法	- データや処理方法を判断し、プログラミングにより分析すること - データの信頼性を判断すること - 適切なデータ分析手法を選択し、結果を基に課題の本質を分析すること - モデルやデータ分析を活用して本質を解析し、最適で実行可能な解決策を考察すること
		統合的な理解	総合的な発揮
		情報を吟味・設計・表現し、評価・改善を繰り返すことで、情報の受け手により良い価値を提供できることを理解する。	情報技術の正負の側面に配慮しつつ、情報の受け手にとって最適な理解や行動を促す価値ある作品を設計・表現し、評価・改善を繰り返すことができる。
		内容項目例	内容項目例
	AI （仮称） （3）	- ユーザ中心設計による整理と設計 - 情報構造、画面構成、表現方法などを考慮したコンテンツ設計方法 - ユーザビリティやアクセシビリティなどの観点からコンテンツの評価方法 - 設計・制作・評価・改善を繰り返すプロセスの意義 - プロトタイプを用いて改善を重ねる方法と制作への活用方法	- ユーザーの立場に立って利用場面を想定し、目的に応じた構成や表現を判断して設計すること - 評価や検証の結果を基に課題を分析し、価値を高める改善策を判断すること - ユーザー中心の設計・評価・検証・改善を繰り返し、目的や状況に応じて価値あるコンテンツを制作すること
		統合的な理解	総合的な発揮
		AIの大量の情報を扱える利点と、偏りやバイアスを生む特性を捉えることで、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮しつつ、利点を十分に生かして活用できることを理解する。	AIの利点や負の側面を捉え、出力を批判的に評価し、倫理・法・社会の観点を考慮して適切に活用できる。
		内容項目例	内容項目例
		- 機械学習の基本的な仕組み - 学習データ - 教師あり学習と教師なし学習の違い - AIの活用に伴う倫理的・法的・社会的な課題 - データの偏りやバイアスがAIの判断へ与える影響 - AIを安全かつ適切に活用するためのガバナンスの考え方	- AIの特性や限界を踏まえて適切に活用する判断をすること - 目的や課題に応じて教師あり・教師なし学習を選択し、AIを適切に活用する判断をすること - AIの正負の両面に配慮し、社会的影響を踏まえて責任ある活用の在り方を考察し表現すること

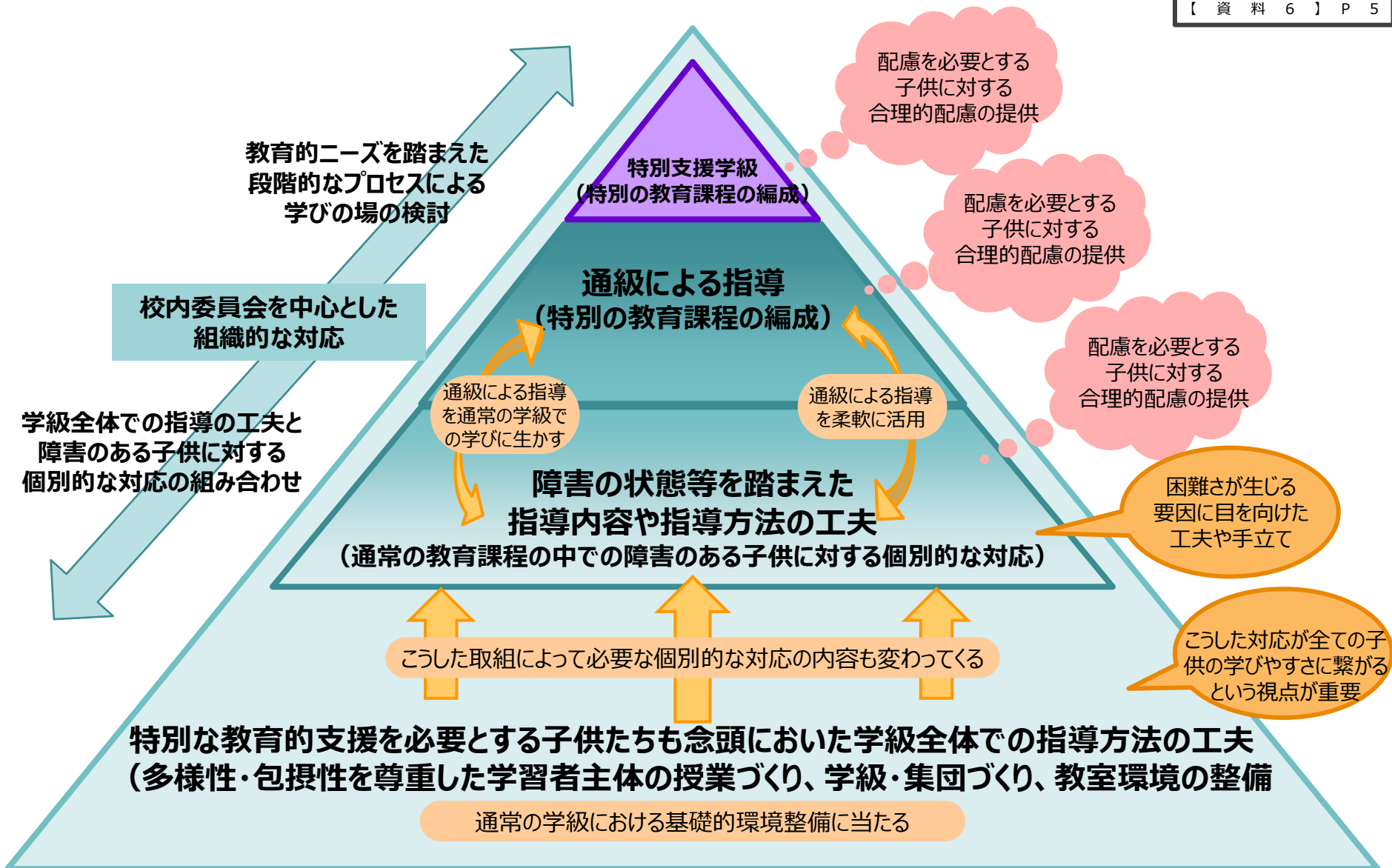
資質・能力の全体構造（素案）

			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
高等学校	情報Ⅱ	(4) 先端技術と情報システムデザイン（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			先端技術の、利点の発揮と弊害の抑制のために試作、検証、改善を重ねて実装される特徴を見だし、その効果を批判的に評価しつつ、有効性や限界を判断し、利点を十分に生かして適切に活用できることを理解する。	先端技術を活用した情報システムの効果や働きを、その利点や弊害等に配慮して批判的に評価し、有効性や限界を判断して適切に活用、評価・改善できる。
		(5) 創造的な課題発見・解決の実践（仮称）	統合的な理解	総合的な発揮
			一定の制約の下でプロジェクトを管理・進行して価値を生み出し、実装後のフィードバックを受けて改善を重ねるプロセスを、情報技術の活用により探究的に実践することで、実社会における課題解決や価値創造できることを理解する。	プロジェクトを管理・進行し、実装後のフィードバックを受けて改善を重ねるプロセスを、情報技術の活用により探究的に実践することを通して、実社会の課題の解決や価値を創造する方策を考察し表現できる。
	高等学校	(4) 先端技術と情報システムデザイン（仮称）	内容項目例	内容項目例
			- 先端技術の特徴や社会での活用 - 複数の先端技術を組み合わせたシステム設計 - データ活用、AI処理、インタフェース、ネットワークなどを統合したシステム構築 - システム開発の過程における試作、検証、改善の方法 - ユーザ体験の質や社会的影響を踏まえたシステムの評価方法	- 先端技術の特性を踏まえ、社会課題との関係から活用の可能性を判断すること - 社会課題の解決に向けて先端技術を適切に組み合わせ、機能や制約を考慮しながらシステムを構築すること - 複数の先端技術を組合せたシステムの価値を最適な形で表現・発信し、社会課題の解決につながる提案を考えること
	高等学校	(5) 創造的な課題発見・解決の実践（仮称）	内容項目例	内容項目例
			- 課題の背景や要因を整理する方法 - データ活用、システム構築、コンテンツ制作等の複数のを組合せた実行方法 - 実行の過程で得られた結果の検証 - 実行と検証を通して課題や改善点を整理する方法 - 他者と協働しながら改善を重ねる意義 - 改善の結果を踏まえた解決策や成果の整理方法	- 課題を多面的に捉え、情報技術の活用を見通した計画を考えること - 情報技術を適切に組み合わせで計画を実行・検証を行い、課題解決に向けた改善点を考えること - 協働的に探究しながら計画・実行・改善を繰り返し、価値ある成果を創造し、情報技術を用いて表現すること

**特別支援教育WGにおける
議論の補足イメージ及び
教科の目標、見方・考え方、
資質・能力の全体構造（素案）**

小・中学校に在籍する障害のある子供たちの学習活動の充実に向けた方策 (重層的な指導・支援のイメージ)

令和 7 年 1 1 月 2 5 日
特別支援教育WG(第3回)
【 資 料 6 】 P 5

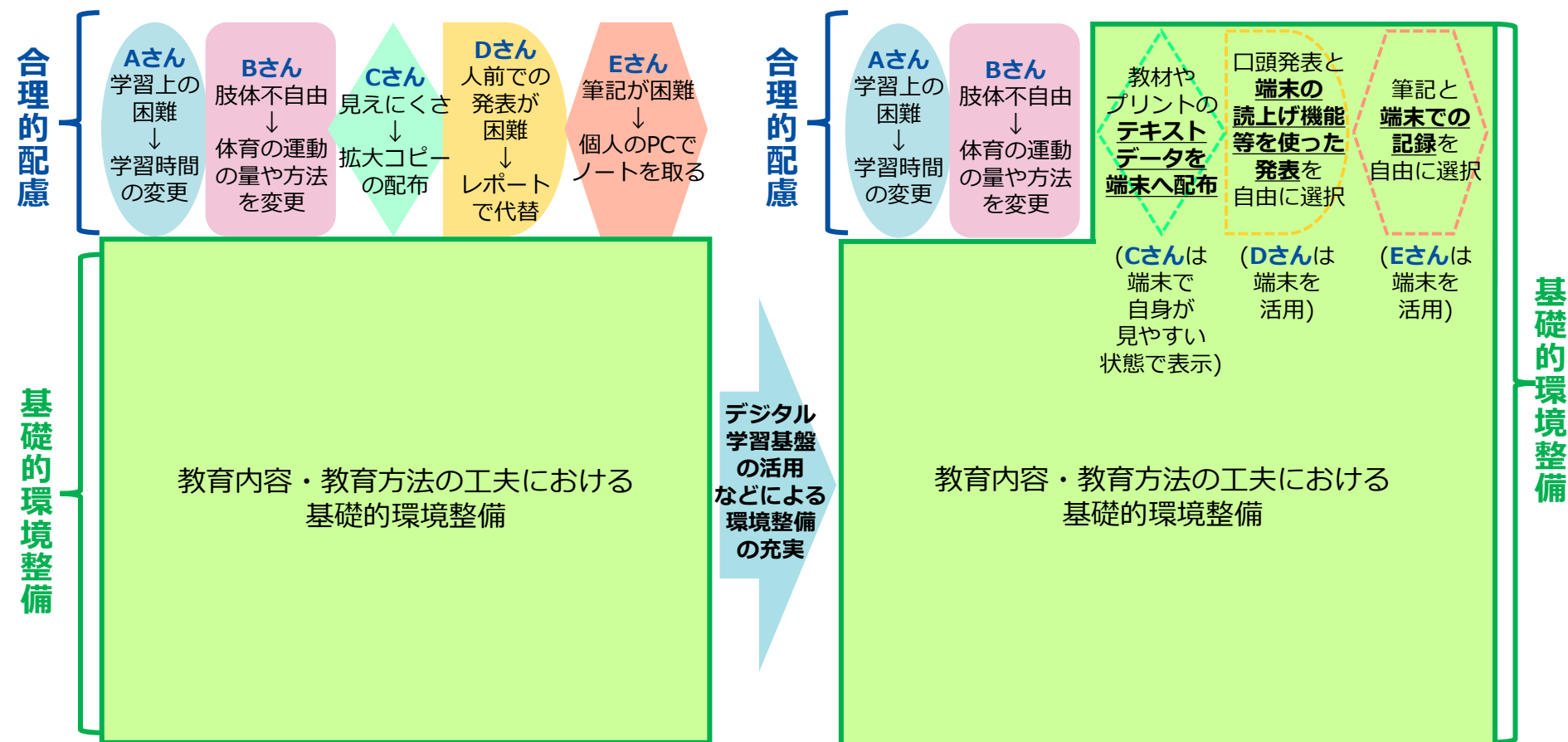


※特別支援学級の対象： 知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症・情緒障害

通級による指導の対象： 言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、学習障害、注意欠陥多動性障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱

デジタル学習基盤の活用などによる基礎的環境整備の充実と 合理的配慮の関係（イメージ）

従来、児童生徒への個別の合理的配慮として提供する必要があった支援の中には、1人1台端末などの活用によって誰でも選択可能な学習方法となり得るものもあり、デジタル学習基盤の活用は合理的配慮の前提となる基礎的環境整備の充実に、特に不可欠なものと考えられる。



通級による指導を受ける場合の教育課程の特例的な取扱いの見直し（イメージ）

現行制度

通常の
教育課程

各教科等

通級による指導

通級による指導を
利用する児童生徒
の教育課程
(特別の教育課程)

障害による困難の
改善・克服を目的
とした指導 (※)

各教科等 (通常の学級での授業)

(※) 自立活動の内容を参考として目標・内容を設定。

(特に必要があるときは、障害による困難の改善・克服を目的とした指導を、各教科の内容を取り扱いながら行うことが可能)

通級による指導

通級による指導を
利用する児童生徒
の教育課程
(特別の教育課程)

障害による困難
の改善・克服を
目的とした指導

各教科

(障害の状態等を踏まえ
特に必要がある場合)

各教科等 (通常の学級での授業)

検討の 方向性

- 障害による困難の改善・克服を目的とした指導として、自立活動を取り入れることを明確に規定
- 自立活動の指導を実施した上で、特例的な措置として、障害による困難がゆえに学習に遅れをきたしている場合や、障害の特性上、特定の内容について通常の学級では学習が困難な場合に、困難さの状態に対する手立てとして、教師の持ち授業時数の増につながらないよう働き方改革にも留意しつつ、通級による指導において、各教科(※)の指導を行うことも可能としてはどうか。その場合、通級による指導が「一部の時間で障害に応じた特別の指導を実施」するものであることを踏まえ、単に補習的に各教科等の内容を教えるのではなく、あくまで個々の障害による学習上の困難の改善・克服を目的とした指導の一部として行うことを条件としてはどうか ※高校においては各教科・科目
- 合理的配慮の提供の観点も踏まえ、障害の状態等を踏まえ必要な場合には、本人・保護者と十分に意思疎通を図りつつ、各教科(※)の目標・内容の一部を、障害の状態等を考慮したものに替えることを可能としてはどうか ※高校においては各教科・科目
- 特例的な取扱いは、設置者の定めるところにより、校内委員会での組織的な検討を踏まえつつ実施するものと整理してはどうか

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学部	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。	児童が、具体的な活動や体験を通して、自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。

見方・考え方

- 社会及び自然などの対象を自分との関わりの視点から捉え、自分自身や自分の生活について考えること。

高次の資質・能力（素案）

	学校・家庭での基本的な生活習慣 （仮）	社会での人とのかかわり （仮）	社会や地域でのくらし （仮）	身近な自然やものはたらき （仮）
	高次の資質・能力	高次の資質・能力	高次の資質・能力	高次の資質・能力
小学部	よりよい毎日の生活を送る上で必要となることを考えて行動する中で、健康で規則正しい安全な生活習慣を身に付けることにより、健康で自立した生活を送ることができる。	身近な人や社会と関わる上で必要となることを考えて行動する中で、社会で他者と円滑に関わる力を身に付けることにより、社会的に豊かな生活を送ることができる。	社会や地域で暮らす上で必要となることを考えて行動したり表現したりする中で、きまりを守って社会資源を適切に利用する力を身に付けることにより、秩序を保った共同的な生活を送ることができる。	物事を論理的に考えたり、分かったことを表現したりする中で、関心をもった事象に自ら働きかける力を身に付けることにより、探究的な学びにつながる生活を送ることができる。

教科の目標、見方・考え方（素案）

目標

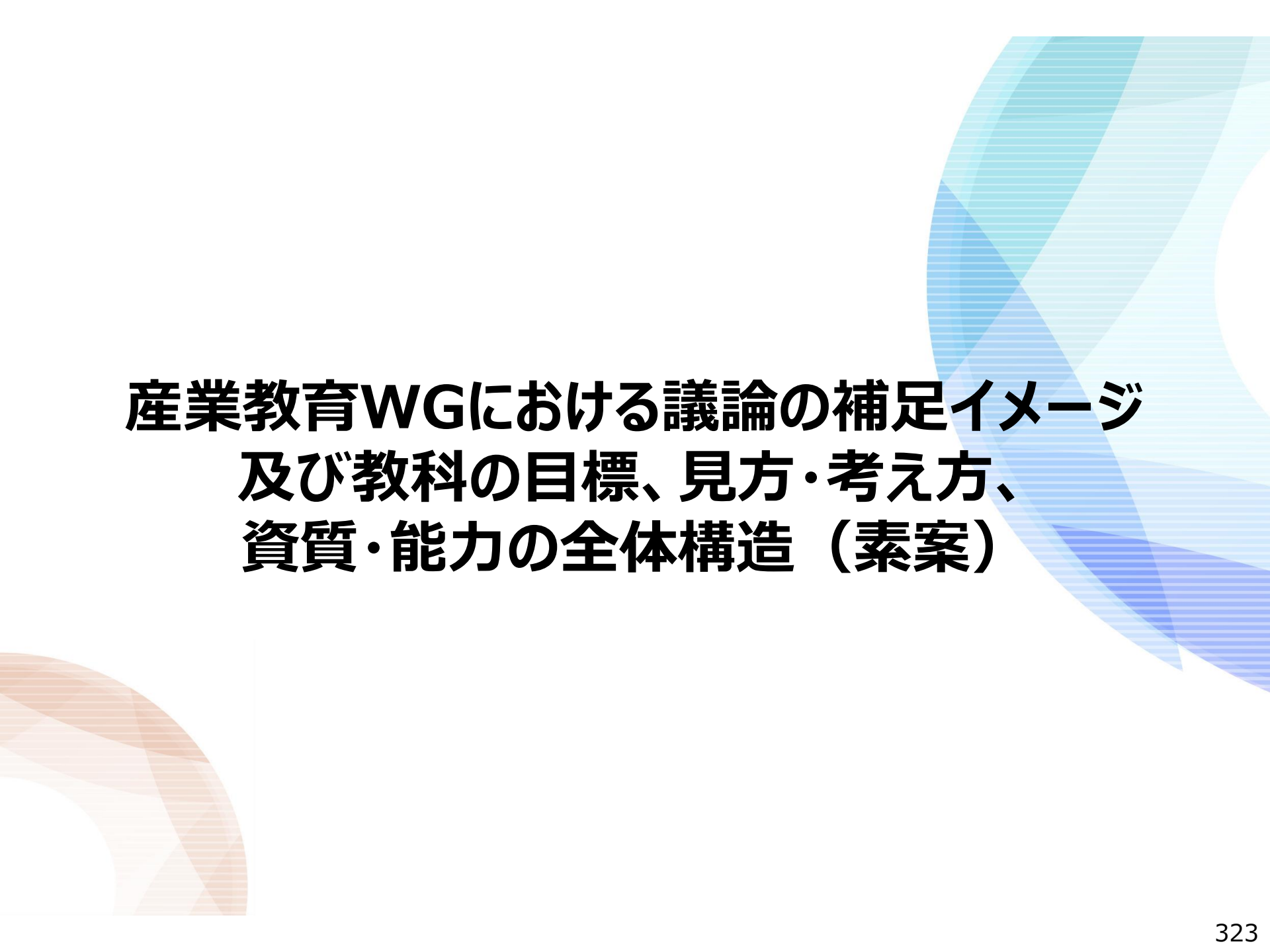
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学部・高等部	職業に対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。	- 生徒自らが、実践的・体験的な活動を通して、知識及び技能を身に付け、それらを活用して職業生活の自立につながるようにする。 - 自分の生活の営み等が地域社会に影響を与えることに気付き、よりよい将来の職業生活の実現に向けて、工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

見方・考え方

- 職業に係る事象を、職業分野で取り扱う内容と将来の生活や生き方をつなげて考え、よりよい職業生活や社会生活を営むための工夫を行うこと。

高次の資質・能力（素案）

中学部・高等部	A 職業生活		B 情報機器・情報技術の活用（仮）		C 産業現場等における実習	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	働くことの意義や働くために必要な技能についての理解を深め、自己実現を図ったり社会の一員としての役割を果たしたりするために必要な力を身に付けることにより、将来のよりよい職業生活につなげていけることを理解する。	よりよい職業生活を送るために、実際の場面において必要となる事柄を考えるとともに、自分の長所や課題との関係から、工夫したり改善したりすることができる。	情報機器・技術の効果的な活用の仕方や、情報機器・技術の適切な取扱い方を理解することにより、それらを職業生活の充実に結びつける力を身に付けることを理解する。	情報機器・技術の活用を通して情報を集めたり整理したりして、自分の思いや考えを表すことにより、職業生活と結び付けた情報機器・技術の活用についての自分の課題を解決することができる。	実践的な知識や技能に触れることを通して学習したことを、自分の希望する職業や進路と関係付ける力を身に付けることにより、自分の将来の職業や進路につなげていけることを理解する。	働く人と直接関わった経験を通して、自分の成長や自己の進路について考えたり、考えを表したりする力を身に付けることにより、自分の進路についての課題を解決することができる。



産業教育WGにおける議論の補足イメージ 及び教科の目標、見方・考え方、 資質・能力の全体構造（素案）

学びの深まりや資質・能力を意識した 主体的・対話的で深い学びの一層の充実のための改善

現 行

第29 建築構造

2 内容

1 に示す資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

(1) 建築構造の概要

知識・技術

思・判・表

(2) 建築材料

・
・
・

知識・技術

思・判・表

改善イメージ

(現行学習指導要領をもとにしたイメージ)

第29 建築構造

2 内容

(1) 建築構造の概要

建築物の構造について、技術の進展に対応した建築物の構法や構造の種類、歴史的な発達過程と特徴に着目し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 建築物の構造について、建築構造の種類と特徴を踏まえて理解すること。

イ 建築物の力学的な特性に着目して、建築物の構造に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。

(2) 建築材料

建築材料について、種類と特徴、規格と性能に着目し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 建築材料について、種類と特徴、規格と性能を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。

イ 物理的・化学的性質と用途に着目して、建築材料に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。

各教科における、各領域・分野における学びの体系の整理

現行

原則履修科目【課題研究等】

卒業年次に履修

選択履修科目（その他専門科目）

領域・分野

領域・分野

領域・分野

...

原則履修科目【基礎的な科目】

入学年次に履修

改善案

原則履修科目【課題研究等】

探究的・実践的な学びの積み重ね

選択履修科目（その他専門科目）

領域・分野

領域・分野

領域・分野

学習の深まり・積み重ね

学習の深まり・積み重ね

学習の深まり・積み重ね

...

領域・分野の整理、学びの関連性・可視化

原則履修科目【基礎的な科目】

入学年次に履修

産業教育の目標、見方・考え方（素案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
産業教育	各職業分野について社会的な意義や役割を踏まえ、体系的・系統的に理解するとともに、各職業分野の発展及び職業人としての自己の成長のために必要となる技能を身に付けるようにする。	各職業分野に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養う。	※「別紙1」を踏まえ更に検討。

※産業教育の目標、見方・考え方を踏まえ、各教科において更に検討。

見方・考え方

- 社会や産業に関する事象を、職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会や産業の発展につなげること。

＜各教科における見方・考え方の整理＞

農業	農業や農業関連産業に関する事象を、生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、職業人としての自己の成長と、農業や農業関連産業の持続的な発展につなげること
工業	工業に関する事象を、よりよいものづくりを創出する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会の発展につなげること
商業	企業活動に関する事象を、利益の追求と社会的責任の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、ビジネスの持続的な発展につなげること
水産	水産や海洋に関する事象を、海洋資源を持続的に利用する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、水産業及び海洋関連産業の持続的な発展につなげること
家庭	生活産業に関する事象を、生活の質の向上の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、生活産業の発展につなげること
看護	健康に関する事象を、当事者の考えや健康レベルの視点で捉え、職業人としての自己の成長と、より健康的な生活の実現や保健医療の発展につなげること
情報	情報に関する事象を、課題解決や価値創造の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、情報及び情報技術を活用したよりよい社会の実現につなげること
福祉	日常生活に関する事象を、人間の尊厳と自立の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、地域共生社会の推進につなげること

原則履修科目（基礎的な科目）の目標（素案）

目標

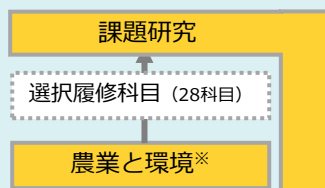
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
基礎科目	各職業分野について社会的な意義や役割を踏まえ、体系的・系統的に理解するとともに、各職業分野の発展及び職業人としての自己の成長のために必要となる基礎的な技能を身に付けるようにする。	各職業分野に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する基礎的な力を養う。	※「別紙 1」を踏まえ更に検討。

※産業教育の目標を踏まえ、各教科・科目において更に検討。

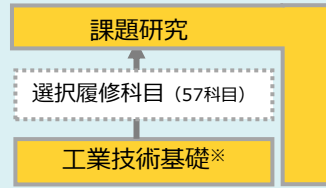
職業教科・科目の全体構成

（科目構成は現在検討中であるため、現行学習指導要領における科目を前提とした整理）

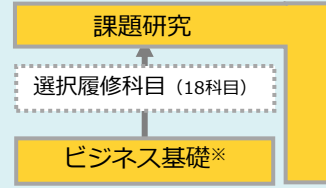
農業科：30科目



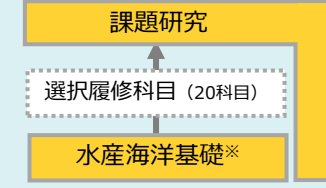
工業科：59科目



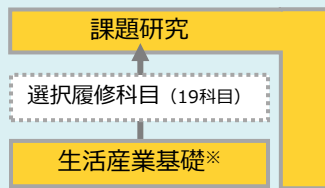
商業科：20科目



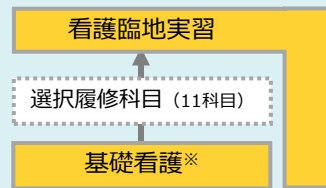
水産科：22科目



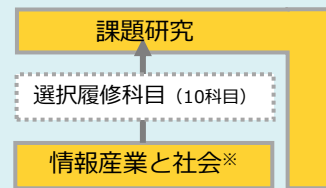
家庭科：21科目



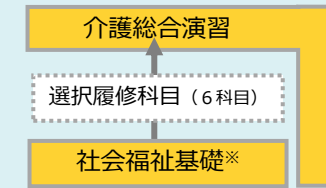
看護科：13科目



情報科：12科目



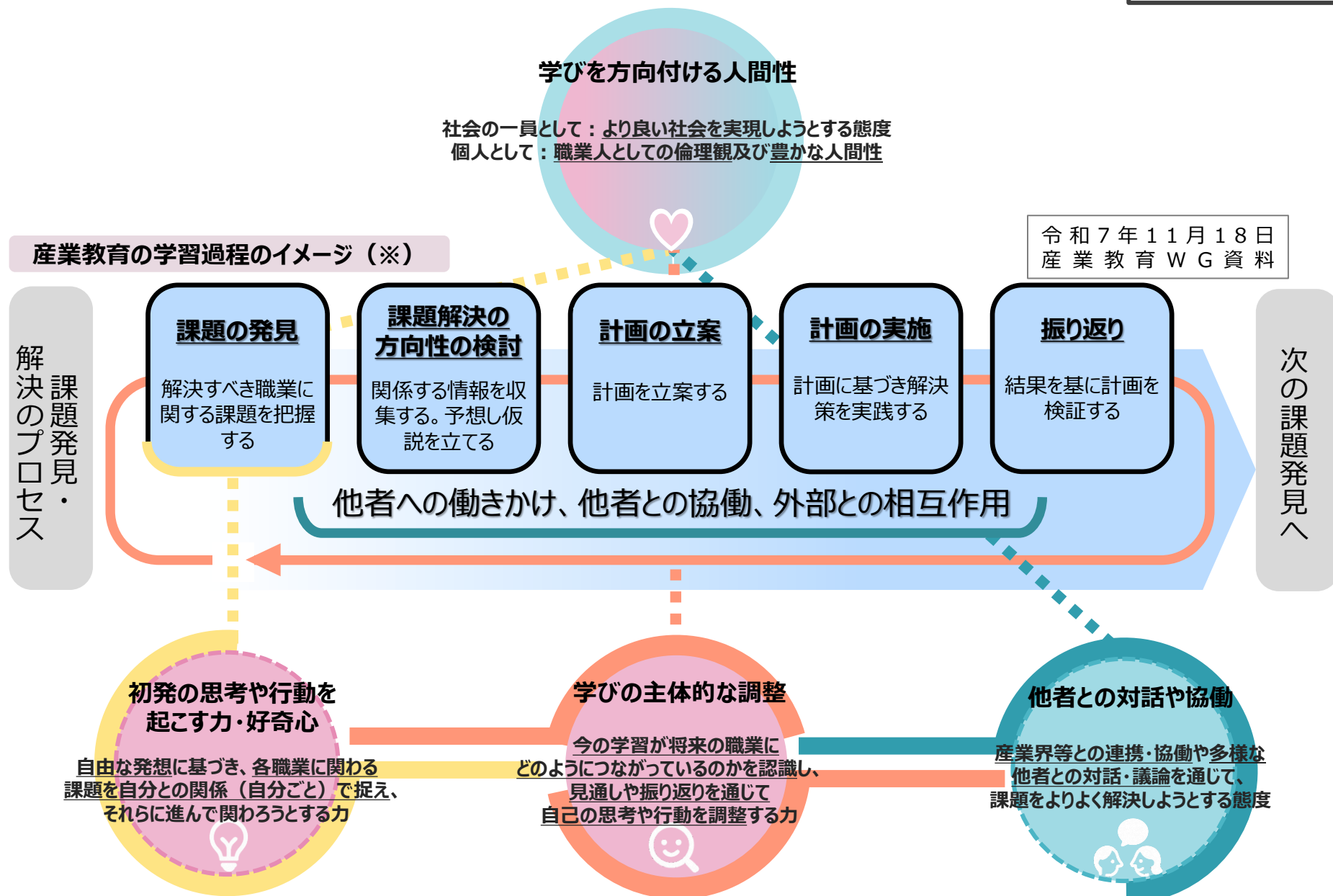
福祉科：8科目



※各教科の原則履修科目（基礎的な科目）

産業教育における「学びに向かう力、人間性等」の整理イメージ

令和7年11月18日
産業教育WG（第2回）
【資料3】P14



※幼稚園、小学校、中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）（別添15-4）（平成28年12月21日 中央教育審議会）をもとに作成

職業に関する各教科における原則履修科目（基礎的な科目）の資質・能力ベースでの記述の柱立てのイメージ

3つの柱立てのイメージを踏まえ、各教科の学習内容の状況に応じて指導項目を柔軟に設定。

（1）各産業の社会的な意義や役割

〇〇（産業名）が私たちの暮らしに果たしている役割について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）〇〇（産業名）は、環境や文化と密接に関わりながら発展してきたことを理解すること。

（イ）〇〇（産業名）を支える技術の特色を理解すること。

（ウ）環境や自然、生活や文化との調和など、〇〇（各産業）の動向について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）これからの〇〇（各産業）の在り方について、実践的・探究的な活動を通して考察すること。

（2）各教科で学習する内容の概括

〇〇（産業名）及び〇〇関連産業について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）●●（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

（イ）■（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

（ウ）◆（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）□□に関する課題について、科学的な根拠をもって探究することを通して、合理的、創造的に解決策を見いだして表現すること。

（3）教科全体を通じた実践的・探究的な学習

実践的・探究的な学習を進めることについて、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）実践的・探究的な学習の方法と進め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）自分で課題を立て、科学的な根拠をもって探究し、表現すること。

※本記述はイメージであり、今後本柱立てのイメージをもとに各教科においてさらに検討。

高次の資質・能力（素案）

		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
		統合的な理解	総合的な発揮
原則履修科目 （基礎的な科目）	（１）各産業の社会的な意義や役割	我が国において各産業が果たしてきた意義や役割、その技術を学習することで、当該産業を継承・発展・創造していくことが、私たちの暮らしをよりよくすることにつながることを理解する。	これからの我が国の各産業の在り方に関する課題を発見し、それらを取り巻く諸問題や今後の可能性について、科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に考察することができる。
	（２）各教科で学習する内容の概括	各産業の各分野に必要な基礎的な知識や技能の習得に取り組むことで、各産業の全体像を把握するとともに、必要となる知識や技能を高め続けていくことが、よりよい課題解決につながることを理解する。	地域の実態を踏まえながら各産業の各分野に関する課題を発見し、それらを科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に解決することができる。
	（３）教科全体を通じた探究的・実践的な学習	繰り返し課題解決に取り組むことで、未知の課題に直面しても創造的な解決につなげることができることを理解する。	各産業に関する課題を主体的に発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決に向けた選択を行うことができる。